

## 「わたしたちの新幹線課」 がスタートしました。

平成20年1月1日、営業部に「わたしたちの新幹線課」を設置しました。

九州新幹線西九州ルート of 早期実現に向けた取り組みを推進していきます。

新幹線整備に伴い西九州の交通拠点としての位置づけがさらに高まります。中国関西方面へは、博多駅からの直接乗り入れが可能になり、長崎方面においては、県西部地域からの利便性は飛躍的に向上します。また、運行本数も増加しますので、福岡、長崎方面への通勤・通学がさらに便利になります。

武雄市の交通の拠点性をさらに高めるために、産官学連携で新幹線を活かした街づくりを行なっていくとともに、周辺地域はもとより、県域を越えた観光・産業の連携をさらに促進していきます。



## 市民病院に関して

### 市民の皆様へのメッセージ

武雄市民病院は、平成12年2月に国立療養所武雄病院の経営を引き継ぎ、以後今日まで、武雄市民の負託に応えるべく、救急医療や診療体制の充実を図り、医師、看護師をはじめとする医療スタッフの昼夜を問わない懸命な努力により、市民の皆様の信頼を得てきたところです。

しかしながら、国の医療費抑制政策や医療制度改革に伴い、武雄市民病院を巡る経営環境は一層厳しさを増していることから、私は、昨年12月の市議会一般質問において、市民病院の経営課題として次の4点を指摘し、これらの課題を解決するため市民病院の経営改革の検討を進めている

旨答弁しました。

①今の市立病院直営のままであれば、救急救命、高度医療について、十分に提供できないこと

②医師の招聘、看護師の採用ができていく状況にあること  
③立地条件が悪いこと  
④国が抜本的な改革を求めていること

しかし、昨年末の市民病院職員への説明会において、昨年12月議会における私の答弁が市民病院の医療水準を低く評価したものと受け取られ、病院医療スタッフの方々には多

大な迷惑をおかけしたことに  
ついて陳謝するとともに、医師の招聘、看護師及び医療技術者の採用ができていくことに伴う市としての課題を指摘したものであることを説明しました。さらに、私は、市民病院のこれまでの実績や努力、医療水準について高く評価し、市民の厚い信頼を得ているとの認識を表明したところです。

現在、全国的な医師不足が社会問題となつていますが、市民病院においても医療スタッフが充足していない中、市民の命と健康を守るため医師をはじめとする医療スタッフの献身的な努力により医療現場は維持されています。市民病院は、武雄市内唯一の救急告示病院として、平成18年度には700人以上の救急搬送を受け入れました。時間外診療では3千人以上の患者の対応にあたるなど、救急告示病院としての市民ニーズの高さが表れています。しかし、今後時間外診療や救急患者の増加にもない医療スタッフの過重な勤務が予想され、このことがまた医師不足を引き起こす要因となっている現状があります。市民の皆様には、夜

間、時間外の救急医療を適正にご利用いただくとともに、一般診療については、なるべく通常の診療時間内の受診へのご協力をお願いいたします。

私は、市民病院の経営責任者として、これまで培ってきた市民からの信頼を礎に、市民の命と健康を守るため、市民病院の医療スタッフともども市民医療の維持向上のため努力してまいります。市民の皆様のご理解、ご支援をよろしくお願いいたします。

なお、市民病院の今後のあり方については、昨年12月に市議会に市民病院問題調査特別委員会を設置され、いろいろな角度から議論が進められているところであり、今後、議会や市民の皆様のご意見、医療や経営に知見を有する方々などのご意見を踏まえ、新たな経営形態を検討する所存です。

市民病院の医療スタッフの努力に敬意を表しますとともに、市民の皆様のご理解、ご支援を重ねてお願い申し上げます。

平成20年2月1日

武雄市長 樋渡 啓祐